

令和7年度 雀宮中央小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

（1）基本目標

自主・自立の精神と豊かな心をもった、心身共に健康な児童の育成
【重点目標】よく考える よく話す よくきく

（2）具体目標

- 明るく元気でがんばる子供（元気）
- 進んで学びよく考える子供（やる気）
- 心豊かで思いやりのある子供（思いやり）

合言葉 「元気 やる気 思いやりのある 雀央っ子」

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校は、児童にとって安心かつ安全な場所、楽しく前向きなエネルギーをもった場所でなければならない。児童は、ありのままの自分が受け入れられているという安心感の中で自己の存在感を感得し、互いに切磋琢磨して自己を成長させ、困難に負けない強さを身に付けていくことができる。そして、未来に向かって夢をもち、道を切り開いていく力を蓄えることができる。

また、学校は、学びの面白さを実感できることなくしてはならない。児童は、主体的・対話的な学びを通して、分かる楽しさや自己の力の向上に気付いていく。

そのために、教職員が、常に前向きな姿勢で職務に取り組み、児童一人ひとりと向き合い、互いにチームとして支え合い、絶えず研修に励んで専門性を高めて授業力を向上させるとともに、保護者や地域住民と連携し、信頼関係の下、共に子供たちを育てていくことのできる学校づくりを目指す。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- （1）知・徳・体の調和を図りながら、社会に開かれた教育課程を編成して資質・能力を育み、学校教育目標の実現に努める。
- （2）児童がよさや可能性を発揮したり協働したりできる、行きがい・居がいのある学校づくりに努める。
- （3）職員が日々の研究と修養に努めることを推進するとともに、同僚性と自律性を基盤にした職場づくりに努める。
- （4）地域学校園内の小中学校との連携を深め、義務教育9年間を見通した系統的・継続的な指導の充実に努める。
- （5）地域と共にある学校づくりを推進し、家庭・地域・関係機関との連携協力体制の強化に努める。
- （6）業務の改善と勤務時間を意識し、それぞれが自己の働き方をマネジメントし、全校体制で働き方改革を推進する。

【雀宮地域学校園教育ビジョン】

一人一人が自らのよさを自覚し、主体的に学ぶ児童生徒の育成
～生き生きとした活動を通して人とつながる～

4 教育課程編成の方針

(1) 基本方針

- ・ 児童の心身の発達段階の特性及び学校や地域の実態を考慮して編成を行う。特に地域の人的、物的な教育資源および環境を把握し、教育活動の中に積極的に取り入れる。
- ・ 地域学校園教育ビジョンを目指す教育課程となるよう、9年間の学びの連続性を考慮した編成を行う。

(2) 留意点

- ・ 体験的な学習や問題解決的な学習の一層の充実を図る。
- ・ 一人一台端末及びその他のICT機器を積極的に活用した授業実践を積極的に行う。
- ・ 各種学力調査の結果を生かし、指導の改善を通して学力向上に努める。
- ・ インクルーシブ教育の充実に向け、学校全体で特別支援教育を推進する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営

- ・ 児童一人ひとりの自己実現（社会的自立）を目指した学業指導の充実を図り、心理的安全性の高い学校づくりを目指す。
- ・ 障害の有無にかかわらず、個々の違いを認識しつつ、様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎を培う。
- ・ 児童の育成について、家庭・地域と思いを一つにした信頼される学校づくりの推進。
- ・ 地域協議会や関係機関及び団体等と連携し、地域の教育資源を生かした活動や幅広い人材の活用を行う地域と共にある開かれた学校をつくる。
- 地域学校園教育ビジョンを共有し、9年間を見通した「宮・未来キャリア教育」の推進。
 - ・ 全教職員が必要な情報を共有し、互いの要請に応え合えるチームづくりを強化する。
 - ・ 業務の改善と勤務時間を意識し、それぞれが自己の働き方をマネジメントできる職員室づくり。
 - ・ 教職員と児童がゴールを共有して教育活動を展開する「雀央っ子が今年がんばること」を実施。（年間2回PDCAサイクルの実行）。

(2) 学習指導：やる気

- ・ 見通しを立てて主体的に学習に取り組み、課題を解決しながら自分の学びを深めていこうとする児童の育成。
- ・ ねらいを明確にし、児童が自ら目標を設定することにより学ぶ意欲をもてるようにする。
- ねらいを実現するため、個別最適な学び・協働的な学びの充実を目指した授業づくりに努める。
 - ・ 授業の終わりに、ねらいが実現されたかどうかを振り返る時間を確保し、評価が次の授業改善に生かされ、確実に学習内容が定着していくよう指導の充実を図る。
 - ・ 各教科で身に付けた資質・能力を活用・発揮できるよう、教科等横断的な視点に立つ授業計画。

(3) 児童生徒指導：思いやり

- ・ 自ら考え、思いを伝え合い、自分も相手も大切にして互いを認め合うことができる児童の育成。
- ・ 認め・褒め・励ます指導を行い、自信や自己肯定感・自己有用感を育む。
- ・ 新たな不登校を生まないために、児童への指導・支援方針について教職員全体で共通理解し、チーム支援の充実を図る。
- ・ 一人ひとりの特性や困難さに応じた適切な指導を行う。
- ・ いじめの解決に向けて自主的な行動を促す機会や場を設定する。
- ・ ネットトラブル等の未然防止のため、主体的に判断しインターネットを適切に使用できるよう指導を行う。
- 教育活動全体を通じた「宮っ子心の教育」の推進と道徳の授業の充実を図る。

(4) 健康（体力・保健・食育・安全）：元気

- ・ 生涯に渡って心身ともに健康で安全な生活を送るために、自ら考え行動できる児童の育成。
- ・ 運動に親しみ、運動量を確保する活動の工夫。
- ・ 健康を脅かす様々な要因の理解と、健康を管理する能力の育成。
- 食事の重要性や栄養バランス等、望ましい食習慣の定着を図る指導の充実。
 - ・ 危険を予測し、自身の安全を守るための判断力や実践力の育成。

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価								
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	<p>A 1 児童は, 他者と協力したり, 必要な情報を集めたりして考えるなど, 主体的に学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は, 学習課題を解決するために, 友達と話し合ったり, 必要な情報を集めたりしながら, じっくり考え, 進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>1 児童が主体的に学習に取り組む手立てを, 全学級で行う。 (1)ねらいが明確で, 実生活に関わる教材の提供により, 学ぶ意欲がもてる授業の工夫 (2)ねらいの実現に向け, 協働的解決のための時間を確保し, 対話的に学び合う授業の工夫 (3) インターネットや図書等の資料の効果的な活用</p>	B	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1043 472 1497 546"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>91.2</td> <td>96.8</td> <td>89.1</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>児童の肯定的回答は, 数値指標を大きく上回り, 十分満足できる結果となった。</p> <p>【次年度の方針】 具体的な取組を着実に実践していくとともに, 主体的に学習活動に取り組める教材や話合いの工夫, ICTや図書の効果的な活用等を行っていく。</p>	児童	教職員	保護者	地域住民	91.2	96.8	89.1	
児童	教職員	保護者	地域住民									
91.2	96.8	89.1										
1- (2) 豊かな心を育む教育の推進	<p>A 2 児童は, 思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は, 誰に対しても, 思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 「児童は, 誰に対しても, 思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>1 道徳の時間の指導を要として, 思いやりのある豊かな心情を育成する。また, 互いのよさを認め合える場面を意図的に設定していく。 2 縦割り班による児童会活動や清掃活動をはじめ, 異学年集団による活動を取り入れ, 上級生が下級生の面倒をみることを通して, 思いやりの心が醸成されるようにする。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1043 943 1497 1016"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>94.1</td> <td>93.5</td> <td>93.5</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <p>児童・保護者ともに, 肯定的回答は数値指標を大きく上回り, 十分満足できる結果となった。</p> <p>【次年度の方針】 縦割り班活動や清掃活動など, 異学年集団での活動を充実させていく。また, 道徳の時間を通して, 思いやりの心を育む取組を継続して行っていく。</p>	児童	教職員	保護者	地域住民	94.1	93.5	93.5	100
児童	教職員	保護者	地域住民									
94.1	93.5	93.5	100									
	<p>A 3 児童は, 目標に向かってあきらめずに, 粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は, 目標に向かってあきらめずに, 粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 「児童は, 目標に向かってあきらめずに, 粘り強く取り組んでいる。」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>1 目標を立て, 自分自身を振り返ることができる活動を効果的に行う。 (1)各種検定表におけるめあて・振り返りの記入 (2)宮・未来キャリアパスポートの活用 (3)委員会やクラブ活動の振り返りカードの活用 2 学校で児童が粘り強く取り組んでいることを学校便りを通して保護者に知らせる。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1043 1404 1497 1478"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>89.5</td> <td>100</td> <td>81.3</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>児童・保護者の肯定的回答は数値指標を上回り, 満足できる結果となった。</p> <p>【次年度の方針】 宮・未来キャリアパスポートを活用して, 児童一人一人がめあてをもって行事に取り組んだり, 活動をふり返ったりできるようにしていく。また, 家庭にも児童の頑張りを伝える場を積極的に設けていく。</p>	児童	教職員	保護者	地域住民	89.5	100	81.3	
児童	教職員	保護者	地域住民									
89.5	100	81.3										

<p>1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進</p>	<p>A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>1 交通安全教室や避難訓練を計画的に実施することにより、危険予測や危機を回避する意識の高揚を図る。 2 保健だよりや児童指導だより、食育だよりといった各種便りの配付により、健康や安全に関する意識を高める。 3 保健指導教材を活用し、各クラスにおいて発達段階に応じた指導を行い、健康や安全に対する意識を高める。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>95.0</td> <td>93.5</td> <td>93.2</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <p>教職員・保護者ともに、肯定的回答は数値指標を大きく上回り、十分満足できる結果となった。</p> <p>【次年度の方針】 普段からの声掛けや委員会の放送、各種便りの発行により指導・支援を継続してきたことで、健康や安全を意識した行動が主体的にできるようになった。また、登下校時の安全に対する意識を高くもたせるために、登校班班長へのアンケートの実施や年間を通して下校指導を行っていく。危険予測や危機を回避する意識を高めるために、避難訓練等、実践的な取組を行っていく。</p>	児童	教職員	保護者	地域住民	95.0	93.5	93.2	100
児童	教職員	保護者	地域住民								
95.0	93.5	93.2	100								
<p>1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進</p>	<p>A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、自分の良さや考えを生かしたり、周りと協力し合ったりして、進んで生活をよりよくしようとしている。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 「児童（生徒）は、互いの良さを生かしながら、進んで意見を発表したり、協力したりして、集団での課題を解決している。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>1 学校生活において、自己の成長に気付かせるとともに、友達や社会と進んで関わろうとする力の育成を図る。 2 宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、夢や目標の実現意欲を高めたり、勤労観・職業観の育成を図ったりする。 3 委員会活動や学級の係活動や、学校行事等の様々な活動に、粘り強く取り組ませる。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>91.1</td> <td>93.5</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>児童・教職員ともに肯定的回答は数値指標を大きく上回り、十分満足できる結果となった。</p> <p>【次年度の方針】 引き続き、学校生活全般の充実を図り、宮・未来キャリアパスポート等を効果的に活用しながら自己の成長や協力することの大切さに気付けるよう、指導を継続していく。</p>	児童	教職員	保護者	地域住民	91.1	93.5		
児童	教職員	保護者	地域住民								
91.1	93.5										
<p>2- (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進</p>	<p>A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、外国語活動（英語）の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>1 教員とALTの打合せを綿密に行い、ALTを効果的に活用した授業が展開できるようにする。 2 ALTと日常的に触れ合える機会を増やす。 (1)各教室での給食 (2)清掃活動への参加 (3)休み時間等での触れ合い (4)クラブ活動への参加</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>84.9</td> <td>93.5</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>教職員の肯定的回答は数値指標を大きく上回り、十分満足できる結果となった。</p> <p>【次年度の方針】 引き続き、具体的な取組を着実に実践していくとともに、授業以外でもALTの活用や外国語に触れることができる場を設定していく。</p>	児童	教職員	保護者	地域住民	84.9	93.5		
児童	教職員	保護者	地域住民								
84.9	93.5										

	<p>A7 児童は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っている。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>1 生活科や社会科，総合的な学習の時間において，雀宮や宇都宮の良さを学べる授業を展開する。</p> <p>○2 「雀宮の日」に合わせて，地域でとれる農産物を多く使用した地域学校園統一献立を実施する。また，郷土に因んだ給食献立（宮っ子ランチ）を実施し，宇都宮でとれる農産物や歴史を紹介するなどして，宇都宮の食文化への興味関心を高め，郷土愛を育む。</p> <p>3 宇都宮の良さを理解できるように宇都宮学の年間指導計画に基づき，指導の充実と周知を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1043 163 1497 232"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>89.7</td> <td>83.9</td> <td>75.2</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>B</p> <p>児童の肯定的回答は数値指標を上回り，満足できる結果となった。授業や校外学習等で体験的な学習を行うことを通して，宇都宮の良さが学べたと捉えることができる。</p> <p>【次年度の方針】 今後も学習内容の充実を図り，体験的な学習機会を設けていく。学習の取組状況や児童の振り返り等を学校便りや学校ホームページ等で保護者に周知していく。</p>	児童	教職員	保護者	地域住民	89.7	83.9	75.2	
児童	教職員	保護者	地域住民								
89.7	83.9	75.2									
<p>2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進</p>	<p>A8 児童は，デジタル機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は，パソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>1 各教科の授業において，パソコンや実物投影機，プロジェクターなどを効果的に活用した授業を計画的に展開する。</p> <p>2 学校図書館司書や南図書館と連携を図り，学習に図書を活用できる環境を整える。</p> <p>3 プログラミング教育など，ICT機器を使用する学習を計画的に実施する。</p> <p>4 一人一台端末や図書等を使っていく中で，正しい情報を選択したり，適切に活用したりするなどの情報モラルの育成を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1043 716 1497 786"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>89.0</td> <td>100</td> <td>82.2</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>B</p> <p>児童の肯定的回答は数値指標を上回り，満足できる結果となった。1人1台端末や学校図書館，巡回図書等を効果的に活用していたと捉えることができる。</p> <p>【次年度の方針】 引き続き，学習への図書の利用を計画的に進めるとともに，不足している分類の図書を購入し，蔵書の充実を図っていく。また，ICT機器や図書等を効果的に活用し，学校での取組状況を学校便りや図書便り，学校ホームページ等で保護者に周知していく。</p>	児童	教職員	保護者	地域住民	89.0	100	82.2	
児童	教職員	保護者	地域住民								
89.0	100	82.2									
<p>2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進</p>	<p>A9 児童は，「持続可能な社会」について，関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は，「持続可能な社会」について，関心をもっている。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>1 社会科や家庭科，総合的な学習の時間，委員会活動の指導を通し，SDGs等，環境問題への意識を高める。</p> <p>2 小学校段階での「持続可能な社会」を目指すための課題について確認し，児童の発達段階に応じた指導を展開する。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1043 1328 1497 1397"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>88.3</td> <td>71.0</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>A</p> <p>教職員の肯定的回答は，数値指標を下回った。</p> <p>【次年度の方針】 小学校段階における「持続可能な社会」についての指導を確認し，実践を伴った活動を取り入れていく。各教科で環境問題を扱い，問題解決に向けて子供たちが実践できる機会を設定していく。児童が学校生活で行っている活動（節電・節水，ごみの分別，牛乳パックのリサイクル等）も持続可能な社会の実現のための取組であることを知らせ，児童と共に取り組んでいく。</p>	児童	教職員	保護者	地域住民	88.3	71.0		
児童	教職員	保護者	地域住民								
88.3	71.0										

3-(1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	<p>A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>1 児童指導委員会などの機会を通して教職員間の情報共有を図り、校内支援委員会などの機会を活用して指導の方向性を明確にし、教職員が同一の歩調で支援できるようにする。</p> <p>2 外部の関係機関との連携を密接に行っていく。</p> <p>3 個別の支援計画や個別の指導計画をもとに各児童の実態に応じた指導の充実を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>100</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	児童	教職員	保護者	地域住民		100		
			児童	教職員	保護者	地域住民					
				100							
B			<p>教職員の肯定的回答は、数値指標を大きく上回り、十分満足できる結果となった。</p> <p>【次年度の方針】 引き続き、必要に応じて迅速に校内支援委員会を開いたり、積極的に外部関係機関と連携したりと、具体的な取組を実践していく。</p>								
3-(2) いじめ・不登校対策の充実	<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>1 児童指導委員会などの機会を通して教職員間の情報共有を図り、校内支援委員会などの機会を活用して指導の方向性を明確にし、教職員が同一の歩調で支援できるようにする。</p> <p>2 外部の関係機関との連携を密接に行っていく。</p> <p>3 個別の支援計画や個別の指導計画をもとに各児童の実態に応じた指導の充実を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>96.1</td> <td>100</td> <td>80.7</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>	児童	教職員	保護者	地域住民	96.1	100	80.7	100
			児童	教職員	保護者	地域住民					
			96.1	100	80.7	100					
B			<p>児童の肯定的回答は数値指標を大きく上回り、十分満足できる結果となった。</p> <p>【次年度の方針】 今年度同様、いじめゼロ強調月間では、教職員の発信だけでなく、児童主体の取組を積極的に取り入れ、自分事として考えられるようにしていく。</p>								
	<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>1 全校体制による組織的ないじめ防止策の推進を図る。</p> <p>(1)いじめゼロ強調月間での取組 (2)学校だより・児童指導だより等を活用したいじめ撲滅推進のための各種取組の積極的な発信 (3)学校生活アンケートによる「いじめ」の早期発見・早期対応</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>95.4</td> <td>100</td> <td>88.4</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	児童	教職員	保護者	地域住民	95.4	100	88.4	
			児童	教職員	保護者	地域住民					
			95.4	100	88.4						
B			<p>児童の肯定的回答は数値指標を大きく上回り、十分満足できる結果となった。</p> <p>【次年度の方針】 次年度も継続して、居心地のよい学級づくり（自己表現ワークや構成的グループエンカウンター）・ピカイチカードを実践して、自己肯定感・自己有用感を高めていく。</p>								

<p>3-(3) 外国人児童 生徒等への 適応支援の 充実</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大 切にされ、活気があり、 明るくいきいきとした雰 囲気である。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、児童の悩みに寄 り添い、相談に乗ったり、 問題の解決に努めたりし て、児童生徒が明るくいき いきと学校生活を送れるよ うにしている。」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上 「学校行事等において、様々 な立場の児童が、互いを尊 重し合って活動を行ってい る。」 ⇒地域住民の肯定的回答 80%以上</p>	<p>○1児童のよさを認め、称賛したり 励ましたりする指導を心がけるこ とで、児童の自己肯定感を高め る。</p> <p>2 児童全員との教育相談期間「お しゃべりタイム」を実施する。</p> <p>3 校内支援委員会を随時開催し、 困り感を感じている児童に対して は、個に応じた適切な支援をして いく。</p> <p>1 学年・学級経営計画に基づい た、意図的・計画的な指導を通し て、明るく、一人一人を大切にす る学級づくりを目指す。</p> <p>(1)人権週間での取組 (2)Q-U検査の効果的な活用 (3)共遊の時間（ロング昼休み）の実 施 (4)係活動など自発的な活動の実施</p> <p>2 児童の自己肯定感や自己有用感 を高めるために、ピカイチカード を積極的に活用する。</p> <p>3 児童会活動や学校行事の工夫・ 改善を通して、児童の主體的な活 動の場を確保し、楽しく、活気あ ふれる学校づくりを目指す。</p> <p>(1)縦割り班活動の工夫・改善 (2)行事運営への児童の参加促進 (3)各種たよりやホームページ等によ る情報発信</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1043 165 1490 232"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>94.3</td> <td>100</td> <td>86.6</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <p>保護者の肯定的回答は数値指標を上 回り、満足できる結果となった。地域 住民の肯定的回答は、数値指標を大き く上回り、十分満足できる結果となっ た。</p> <p>【次年度の方針】 引き続き、具体的な取組を着実に実 践していくとともに、一人一人が活躍 できる場を設定し、「居がいのある学 校」づくりを目指す。特に、児童主体 の活動の場の確保や外遊びを推奨し、 明るく生き生きとした児童の育成を目 指す。</p>	児童	教職員	保護者	地域住民	94.3	100	86.6	100
児童	教職員	保護者	地域住民								
94.3	100	86.6	100								
<p>3-(4) 多様な教育 的ニーズへ の対応の強 化</p>	<p>4-(1) 教職員の資 質・能力の 向上</p>	<p>○1児童のよさを認め、称賛したり 励ましたりする指導を心がけるこ とで、児童の自己肯定感を高め る。</p> <p>2 児童全員との教育相談期間「お しゃべりタイム」を実施する。</p> <p>3 校内支援委員会を随時開催し、 困り感を感じている児童に対して は、個に応じた適切な支援をして いく。</p> <p>1 学年・学級経営計画に基づい た、意図的・計画的な指導を通し て、明るく、一人一人を大切にす る学級づくりを目指す。</p> <p>(1)人権週間での取組 (2)Q-U検査の効果的な活用 (3)共遊の時間（ロング昼休み）の実 施 (4)係活動など自発的な活動の実施</p> <p>2 児童の自己肯定感や自己有用感 を高めるために、ピカイチカード を積極的に活用する。</p> <p>3 児童会活動や学校行事の工夫・ 改善を通して、児童の主體的な活 動の場を確保し、楽しく、活気あ ふれる学校づくりを目指す。</p> <p>(1)縦割り班活動の工夫・改善 (2)行事運営への児童の参加促進 (3)各種たよりやホームページ等によ る情報発信</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1043 1099 1490 1167"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>95.0</td> <td>100</td> <td>85.3</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>児童の肯定的回答は数値指標を大き く上回り、十分満足できる結果となっ た。保護者の肯定的回答も数値指標を 上回った。</p> <p>【次年度の方針】 引き続き、児童一人一人に寄り添い ながら個に応じた具体的な取組を着実 に実践していく。特に、学校課題であ る「個別最適な学び・協働的な学びの 充実を目指した授業づくり」に重点を 置き、研究授業や一人一授業により教 師の指導力を高め、教材開発と活用を 目指していく。また、個別指導の充実 や指導体制の工夫をさらに進めてい く。</p>	児童	教職員	保護者	地域住民	95.0	100	85.3	
児童	教職員	保護者	地域住民								
95.0	100	85.3									

<p>4-(2) チーム力の向上</p>	<p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>1 情報の共有・状況の共有を積極的に図り「チーム雀央小」の一員であることをより自覚できるようにする。</p> <p>(1) ミライムの校内掲示板による毎朝の連絡 (2) ミニ支援委員会・ミニ対策会議の実施</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> <tr> <td></td> <td>96.8</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>教職員の肯定的回答は数値指標を大きく上回り、十分満足できる結果となった。校内掲示板の有効活用や適宜ケース会議を行って、協働体制で業務に取り組むことができた。</p> <p>B</p> <p>【次年度の方針】 情報共有の徹底と連携を推進するため、引き続き校内掲示板を活用したこまめな連絡で業務の可視化を図るとともに、課題に対し関係職員が即座に集うケース会議を実施する。些細な事案も組織で共有し、迅速かつ確に対応する「チーム雀央小」としての組織力を高める。</p>	児童	教職員	保護者	地域住民		96.8		
児童	教職員	保護者	地域住民								
	96.8										
<p>4-(3) 学校における働き方改革の推進</p>	<p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>1 各自が出退勤記録を打刻することや、毎月、学校全体で1日、個人で1日、リフレッシュデーを設定することで、効率的な業務遂行及び勤務時間管理の意識化を図る。</p> <p>2 教職員の負担軽減に向け、前例にとらわれず、スクラップ&フォーカスを進める。</p> <p>3 ICTの活用で業務のDX化を推進していく。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> <tr> <td></td> <td>83.9</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>便りのペーパーレス化、行事や校務内容の見直し、ICTの有効活用により、教職員の肯定的回答が目標数値指標を昨年度より大きく上回った。</p> <p>B</p> <p>【次年度の方針】 適正な勤務時間に向け、学年や個人でリフレッシュデーを取ったり、便りやアンケートのICT活用を行ったりする等、引き続き効率的な業務遂行と勤務時間管理の意識化を推進する。</p>	児童	教職員	保護者	地域住民		83.9		
児童	教職員	保護者	地域住民								
	83.9										
<p>5-(1) 全市的な学校運営・教育活動の充実</p>	<p>A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、地域学校園の小学生や中学生、先生と、授業や行事、掲示物などで交流する活動を行っている。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 「学校は、小学校と中学校連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>○1 地域学校園による「小中一貫教育実施計画」に基づき、中学校との円滑な交流を推進していく。</p> <p>(1) 全体会・各部会・分科会実施 (2) 地域学校園「あいさつ運動」(中学生参加)(年2回) (3) 「宮っ子チャレンジウィーク」受け入れ(中学生職業体験) (4) 地域学校園内小中合同による南図書館清掃 (5) 小中一貫の「体育検定」活用 (6) 乗り入れ授業実施時期の見直し</p> <p>2 取組について児童、保護者、地域へ積極的に情報発信を行う。</p> <p>3 小中一貫便りを本校で作成し(10月・3月)さくら連絡網で保護者に配付する。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> <tr> <td>94.3</td> <td>90.3</td> <td>81.1</td> <td>100</td> </tr> </table> <p>児童の肯定的回答は数値指標を大きく上回り、十分満足できる結果となった。保護者の肯定的回答も数値指標を上回った。中学生の職業体験では、多くの生徒の受け入れを行い、中学校紹介や中学生の話から、6年生の中学校生活への興味が高まった。</p> <p>B</p> <p>【次年度の方針】 雀宮地域学校園としての実施計画に基づき、具体的な取組を着実に実践していく。引き続き、学校だよりやHPを通して、小中一貫教育の取組を発信していく。</p>	児童	教職員	保護者	地域住民	94.3	90.3	81.1	100
児童	教職員	保護者	地域住民								
94.3	90.3	81.1	100								

<p>5-(2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進</p> <p>5-(3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進</p>	<p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>1 地域協議会を通して授業ボランティアを募集したり、予め学校ボランティアを登録しておいたりする。</p> <p>2 企業や専門家による各種出前授業等を計画的に活用する。</p> <p>3 ホームページに地域協議会だよりの掲載等を行うことにより、家庭・地域への周知を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1043 163 1485 230"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>92.4</td> <td>100</td> <td>92.0</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <p>B</p> <p>肯定的回答は数値指標を大きく上回り、十分満足できる結果となった。地域協議会を通じた授業ボランティアの募集により、授業での効果的なボランティア活用ができた。</p> <p>【次年度の方針】 引き続き、効果的な地域人材の活用を行い、家庭・地域等で協力・連携しながら教育活動の充実を図る。また、さくら連絡網やHPに地域協議会だよりの掲載を行うことにより、地域密着型の行事や学習活動の様子を発信していく。</p>	児童	教職員	保護者	地域住民	92.4	100	92.0	100
児童	教職員	保護者	地域住民								
92.4	100	92.0	100								
<p>6-(1) 安全で快適な学校施設整備の推進</p>	<p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>1 月例の安全点検により、危険箇所の早期把握・早期対応に努める。</p> <p>2 保護者や利用者へ利用時の注意喚起、危険箇所の表示、AED設置場所、災害時避難方法等の危機対応に関する情報を提供する。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1043 775 1485 842"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>100</td> <td>90.0</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <p>B</p> <p>保護者の肯定的回答は数値指標を大きく上回り、十分満足できる結果となった。</p> <p>【次年度の方針】 今年度の取組を継続していくとともに、懇談会等でも危機対応や衛生面に関する情報発信を強化していく。</p>	児童	教職員	保護者	地域住民		100	90.0	100
児童	教職員	保護者	地域住民								
	100	90.0	100								
<p>6-(2) 学校のデジタル化推進</p>	<p>A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、授業（授業準備を含む）や業務に、デジタル※を積極的に活用している。」 ※デジタル…1人1台端末、学校用グループウェア、校務支援システム、デジタル連絡ツールなど ⇒教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>1 全教職員が使用できるクラスルームや授業支援クラウドを積極的に活用して、各教科の授業で使用した教材を共有する。</p> <p>2 各学級その他、クラブ活動や委員会活動でもクラスルームを活用して児童への連絡の伝達・共有を図る。</p> <p>3 ICT支援委員と連携して教材を作成したり、活用の仕方を学んだりしていく。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1043 1328 1485 1395"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>100</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>B</p> <p>教職員の肯定的回答は数値指標を大きく上っており、十分満足できる結果となった。全校体制でGIGAスクール構想実現に取り組み、1人1台端末を活用した学習を展開した成果と考えられる。</p> <p>【次年度の方針】 1人1台端末の効果的な活用をより一層推進し、学習活動を充実させていくとともに、データの共有や各種アンケート等にも活用していく。</p>	児童	教職員	保護者	地域住民		100		
児童	教職員	保護者	地域住民								
	100										

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	<p>B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>○1 児童会活動を中心に地域と連携し、あいさつ運動の積極的な推進を図るとともに、取組を発信していく。</p> <p>(1)年2回の地域学校園あいさつ週間の取組の充実 (2)児童会、あいさつ隊によるあいさつ運動の展開 (3)教師の率先垂範による日常的なあいさつ指導の推進</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> <tr> <td>93.4</td> <td>90.3</td> <td>86.7</td> <td>94.1</td> </tr> </table> <p>B</p> <p>教職員の肯定的回答は数値指標を大きく上回り、十分満足できる結果となった。保護者の肯定的回答も数値指標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 家庭や地域への挨拶の仕方等を、学級を中心に具体的に指導するとともに、学級懇談や個人懇談で挨拶の話題を出して啓発していく。また、各種便りで保護者に周知していく。</p>	児童	教職員	保護者	地域住民	93.4	90.3	86.7	94.1
	児童	教職員	保護者	地域住民							
	93.4	90.3	86.7	94.1							
<p>B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 「児童は、きまりやマナーを守って生活をしている」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>1 基本的な生活習慣育成の徹底を図るとともに、規範意識を高める指導の充実を図る。</p> <p>(1)「雀央スタンダード」「生活のきまり」に基づいた全校体制による指導の徹底 (2)生活目標の設定による、目標を焦点化した指導の展開 (3)学級活動や道徳の授業の充実、規範意識の向上</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> <tr> <td>95.0</td> <td>96.8</td> <td>89.4</td> <td>100</td> </tr> </table> <p>B</p> <p>児童・教職員ともに、肯定的回答は数値指標を大きく上回り、十分満足できる結果となった。</p> <p>【次年度の方針】 引き続き、時代の変化に応じて、柔軟に「雀央スタンダード」「雀央小のきまり」「生活目標」を見直し、適切に実施していく。また、学級活動や道徳の授業（内容項目「規則の尊重」）の充実を更に図っていく。</p>	児童	教職員	保護者	地域住民	95.0	96.8	89.4	100	
児童	教職員	保護者	地域住民								
95.0	96.8	89.4	100								
<p>B3 児童は宿題や自主学習を行う学習習慣が身に付いている。</p> <p>【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、宿題や自主学習などを行う学習習慣が身に付いている。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>1 雀央スタンダードや家庭学習の手引きを活用し、児童の発達段階を踏まえた家庭学習の推進と保護者への協力を図る。</p> <p>2 家庭学習強化週間を7月と11月に実施して、家庭学習アンケートと振り返りカードを活用して確認したり、励ましたりして学習習慣の定着を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> <tr> <td>92.7</td> <td>96.8</td> <td>80.7</td> <td></td> </tr> </table> <p>B</p> <p>教職員の肯定的回答は数値目標を大きく上回り、十分満足な結果となった。保護者の肯定的回答も数値指標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 引き続き、具体的な取組を着実に実践していく。また、家庭学習強化週間の取組を充実させていくとともに、保護者への周知徹底を図りながら連携を強化していく。</p>	児童	教職員	保護者	地域住民	92.7	96.8	80.7		
児童	教職員	保護者	地域住民								
92.7	96.8	80.7									

	<p>B4 児童は、食事の時のマナーをしっかりと守っている。(学校園共通)</p> <p>【数値指標】</p> <p>学校園共通アンケート</p> <p>「わたしは、食事の時のマナーをしっかりと守っている。」</p> <p>⇒児童の肯定的回答 80%以上</p> <p>「児童は、食事の時のマナーをしっかりと守っている。」</p> <p>⇒教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>1 食育の指導計画に基づいた意図的な指導を通して、児童の食事のマナー向上を目指す。</p> <p>(1)給食時の巡回指導における食事のマナーの指導(食器や箸の持ち方、姿勢、等)</p> <p>(2)食育マナー週間でのチェックリストの活用及び食事マナーの向上</p> <p>(3)食育だよりやホームページによる学校での取組の情報発信及び家庭での取組の促進</p>	B	【達成状況】				
				<table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>94.7</td> <td>87.1</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>児童の肯定的回答は数値目標を大きく上回り、十分満足できる結果となった。教職員の肯定的回答も数値指標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>引き続き、食育や食事のマナーについての取組を行っていく。また、取組内容について、積極的に情報発信し、家庭での取組を促していく。</p>	児童	教職員	保護者	地域住民
児童	教職員	保護者	地域住民					
94.7	87.1							
	<p>B5 教職員は、資質・能力の向上のため、進んで研鑽している。</p> <p>【数値指標】</p> <p>学校独自アンケート</p> <p>「教職員は、資質・能力の向上のため、進んで研鑽している。」</p> <p>⇒教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>1 校内研修の活性化を図る。</p> <p>(1)一人一授業の実践</p> <p>(2)小グループでの協議を取り入れた授業研究会の実施</p> <p>2 外部研修への参加奨励</p>	B	【達成状況】				
				<table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>96.8</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>教職員の肯定的回答は数値目標を大きく上回り、十分満足できる結果となった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>引き続き、具体的な取組を着実に実践していくとともに、研修での学びの共有を図っていく。</p>	児童	教職員	保護者	地域住民
児童	教職員	保護者	地域住民					
	96.8							

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

【成果】

25の評価項目中24項目で肯定的回答が数値指標を上回ったことから、本市が目指す「児童の姿」「学校の姿」についておおむね適切な取組が行えたと考え。

中でも次の9項目は、全評価対象者とも90%以上の肯定的回答となり、十分満足できる結果となった。

(Aは本市共通の評価項目、Bは本校独自の評価項目)

- ・ A2 児童は、思いやりの心をもっている。
- ・ A4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。
- ・ A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。
- ・ A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。
- ・ A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。
- ・ A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。
- ・ A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。
- ・ A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。
- ・ B5 教職員は、資質・能力の向上のため、進んで研鑽している。

A2, A4, A5, A10, で見られるように、特別の教科道徳の時間等を通して思いやりの心を育む取組を継続したり、異学年集団での活動を充実させたり、個に応じた支援を実践したりすることで、児童が学校に居がいをもち、健やかに生活している。

A15, A18, A19, A20, B5について、教職員は、各教科や総合的な学習の時間において、体験学習や出前授業等の企画・実践、個別最適な学びに向けた1人1台端末を活用した授業の取組等を積極的に行っていることが分かる。また、児童指導や授業実践のための研修にも熱心である。

学習面においても生活面においても、引き続き、保護者や地域の方々の理解や協力を得ながら指導の充実を図り、児童の力を伸ばしていきたい。

【課題】

25の評価項目中1項目が肯定的回答の数値指標を下回った。

この項目については、全教職員で改善策を検討し、確実に実施して、肯定的回答が数値指標を上回るようにする。

- ・ A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。

A9に関しては、小学校生の目線に合わせた適切な指導の在り方を工夫改善する。特別なことではなく、「節電・節水」や「食品ロス」「ごみの分別」など、日々の生活の中で児童が直面する身近なことに目を向けられるよう支援し、教職員と児童とが共に取り組んでいく。また、我々教職員自身が「持続可能な社会」を意識した私生活・学校生活を送り、得た知識や経験を伝えるなどし、児童の成長を支援していきたい。

7 学校関係者評価

【やる気・確かな学力】

- ・全体として、児童の肯定感が高いと感じる。自己肯定感と、やる気と、ある程度の学力があれば、今後、過ごしていけると思う。
- ・学習1つ1つをしっかりと理解しながら進んでいると思う。1人1台端末での学習やノートでの自主学習など、学習する幅が広がり、楽しく学習に取り組んでいる様子がうかがえる。1人1台端末を使用し、自分のオリジナルの広告を作成するなど素晴らしいと思う。今後はデジタル機器活用に加え、英語力が必要になるだろう。先生方の方針も大切かと思う。
- ・学力向上のため、様々な指導法により、また、デジタル機器等を有効的に使い、よい授業ができていていると思う。児童はプログラミング学習などに興味を示し、集中して取り組んでいると思う。やる気もあると思う。こどもの家もWi-Fiがつながり、1人1台端末を使用しての学習をしている。
- ・A7「児童生徒は宇都宮の良さを知っている。」について、教職員アンケート結果が前年度と比べて差があることが気になる。(R6-93.8% R7-83.9% 前年比 -9.9ポイント) 郷土意識の醸成(雀宮地区の地域を知る学習)には、かなり力を入れているように感じる。教職員や子供たちの受け止め方の違いか。学校は頑張っていると思う。

【元気・健康安全】

- ・子供たちは、外で活動しているのをよく見かける。おおむね健康や安全に気を付けて生活できていると思う。
- ・健康第一に考えれば、常にリズムのある生活、規律のある生活が大切ではなかろうか。
- ・児童には活気があり、学校行事などに生き生きと取り組んでいる。また、行事の準備をしたり練習をしたりと、前向きに頑張っていると思う。
- ・下校時や放課後に、危険な行為、遊び方があったと聞いている。学校での指導だけでなく、保護者にも知らせていただけると、家庭でも話ができると思う。
- ・これからの社会は、「持続可能」などというぬるい言葉では済まないくらい、厳しい自然環境になっていくと思う。先を見越した知恵を身に付けて欲しい。

【思いやり・豊かな心】

- ・豊かな感性は一生の宝物。家庭環境が大きいですが、教師の一挙一動が児童に多大な影響を与えることもある。教師が感性を磨き、思いやりをもてば、児童はそれを感じ取り、好きな先生の真似をするはず。
- ・子供たちのコミュニケーション力の向上や、友達との絆を深めるため、雀央小はいろいろなイベントを考えている。元気に外で遊ぶということにもつながるので、とてもよいと思う。
- ・子供の頃は、人前での発表が苦手だったので、今だったら不登校になっていたかもしれない。そんな中、先生方はよくしていこうと頑張っておられて頭がさがる。
- ・常に年下の子や老人たちに対しての思いやりが積み重なって、一人一人の自分の心が豊かになるのではないだろうか。
- ・B1「児童生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。」は、前年度に比べ、マイナスポイントが多いことは残念。学校の廊下ですれ違ったときに、あいさつができる児童が以前より少ない印象がある。知らない人には難しいか。しかし、あいさつを気持ちよくしてくれる子もいるし、朝のあいさつがしっかりとできる子供もいる。地域と合同のあいさつ運動では、大きな声であいさつをすることができた。
- ・下の学年の子に対し、気づかっているところを見てほっこりした。
- ・学校は様々なイベント等を通して、いじめ防止や上下関係のつながり等、心の教育の充実に努めていると思う。

【学校経営】

- ・先生方が、バランスよく児童を指導してくださることを願う。
- ・全体が一体となって目標に向かって頑張っていると思う。
- ・先生方が児童をよく見ていると思う。チームとして取り組んでいることが分かる。
- ・教職員だけでなく、地域協議会の委員も学校に入り、児童の様子を見ることができ、安心・安全な学校運営をしてくださっていると思う。
- ・世の中の誰もが忙しいと感じている中、効率化も大切である。個人的には、「非効率が生育」と感じている。
- ・4月から高崎市では、朝7時開門を開始するそうだが栃木県、宇都宮市は、そうならないようにもちこたえて欲しいと思う。

【その他】

- ・アンケート項目が多すぎる。前年度比、ポイント低下は誤差と考えてよい。
- ・教職員アンケートの肯定的回答の結果が前年比マイナスとなっているものがあるが、子供たちの様子が大きく変わっていないならばよいと思う。
- ・自分自身が授業を受けていないため、「自分が子供だったら」と想像でしかコメントできないが、今の学校はとても重苦しく感じる。文部科学省の方針もあるのかと思うが、堅苦しくならないようにして欲しい。
- ・A9「児童生徒は、『持続可能な社会』について、関心をもっている。」は、児童にとって難しいと思う。
- ・A11, A12, A13, A14については、教員の肯定的回答は100%であり、正直できることはやりきっていると思うが、教職員と保護者とが一体になって不登校原因をさぐり、取り組みたい。
- ・児童には考える時間を与え、失敗してもよいことを伝えて欲しい。教職員は、失敗しないようにと、先に指導をしないことである。
- ・児童一人一人に合った教育はとても難しいことだと思う。個々の実態に合ったとらえ方を先生方ができれば、その子の学ぶ意欲は向上し、「勉強したい。」という姿勢になるのだと思う。本当に難しいが、先生方は「職人」だと思う。
- ・宇都宮市独自の児童相談所ができ、虐待に特化する予定だそうだが、いじめ加害などにも対応できるよう、学校からも働きかけて欲しい。現在SNSでの問題にも対応できるのではないかと思う。
- ・学校はペーパーレス化を図り、さくら連絡網の活用が進んだが、勤務時間はまだまだ短縮できない部分も多いかと思う。行事はあまり減らしすぎず、必要なところに十分時間を確保できる方法の検討が今後も課題になると思う。
- ・小学生の頃は、自分、家族、自分のクラスが精一杯である。その世界が楽しくなかったら、世界は暗いと思う。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【成果】と重複するが、25項目中1項目を除き、24項目の肯定的回答の割合が数値目標を上回る結果となり、全体として適切な取組を行うことができたと言える。学校関係者評価にもあったように、肯定的回答割合、前年度比のポイント増減の数値に一喜一憂、固執せず、子供たちのために学校ができることを、継続して行っていきたい。

次年度の課題として、以下の3項目を挙げる。

A9「児童生徒は、『持続可能な社会』について、関心をもっている。」

上記A9は、〔総合的な評価〕【課題】にも記述したとおりである。

児童の肯定的回答割合は88.3%と比較的高いが、教職員の肯定的回答割合が71.0%と低い状況にあり、児童と教職員の意識に乖離が生じている。「持続可能な社会」について、教職員が児童に求めるものが高と思われる。

教職員が児童の目線に合わせることで、教職員自身も身近なことから児童とともに実践していくこと、これら大きく2点、教職員の意識改革が必要かと考える。

A11「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。」

A12「教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。」

上記2項目については、教職員の肯定的回答割合は、いずれも100%であり、子供たちのためにできることはやりきっている状態である。しかしながら、いじめや不登校に関する課題については、それぞれが多様化、複雑化、個別化しており、教職員と保護者が信頼関係を築き、一体とならなければならず、今後、一層の努力を要する項目と認識している。

いじめ・不登校問題への適切な対応、及び、怪我・事故や不審者対策、熱中症や地震・雷雨・豪雨等自然災害による危機管理を含め、学校が児童、保護者、地域にとって安全な場所であるよう、教職員と保護者、地域とが未然防止の観点から連携していけるよう情報発信・情報共有していきたい。

今年度、成果が表れ、来年度も継続して推進していきたい3項目を以下に挙げる。

A8「児童生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。」

A20「コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。」

いずれも教職員の肯定的回答の割合が100%である。本校の研究課題である「個別最適な学び」につながる1人1台端末（A1ドリル含む）や、デジタル機器を活用した授業の実践が行えていることが分かる。実際、一斉指導においてデジタル機器を活用した授業をしたり、個別学習の際に児童が1人1台端末を選択して学習したりと、ICT技術を積極的に活用した分かりやすい授業が日常的に実践されている。今年度2回の要請訪問においても、市教委指導主事による肯定的な評価をいただいた。

1人1台端末は、教師、児童ともに、身近な学習ツール、情報共有ツールとなった。今後、市教育センター、情報教育主任、ICT支援員と連携し、さらに効果的な活用方法があれば積極的に取り入れていきたい。

A16「勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」

教職員の肯定的回答は、83.9%で、前年度比+8.9ポイントとなった。

以下、成果につながったと考えられる具体例である。

- ・「学年便りの廃止」 ・「打合せのミライム掲示板活用」
- ・「さくら連絡網による各種便りのデータ配信によるペーパーレス化」
（これまで教職員が事務作業として費やしてきた「印刷時間の削減」と「紙資源の削減」）
- ・宇都宮市小学校全体としての取組、「学校電話の退勤時刻に合わせた留守電設定」
- ・「リフレッシュデー（定時退勤）実施への管理職による継続的な発信」

教職員が、持続可能な「働き方」へ、わずかながら意識の向上を図れたことが要因と考えられる。令和時代となって校務のDX化が推進されてもなお、新たな負荷がかかり、教職員の仕事は「増えるが、減らない。」のが現実ではある。